

新規事業採択時評価結果（平成18年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業の概要

事業名	一般国道388号 小蒲江森崎浦バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	大分県
起終点	大分県佐伯市蒲江大字蒲江浦～森崎浦			延長	2.9km
<p>事業概要</p> <p>一般国道388号は大分県内においては、東九州自動車道を補完し広域ネットワークを形成する主要幹線道路である。当該区間は東九州自動車道と佐伯市蒲江地区へのアクセス強化を図ることにより、広域行政への支援や、交通隘路区間の解消による安全・快適な道路空間の確保に大きく寄与するものである。</p> <p>また、国幹会議で東九州自動車道佐伯～蒲江間の整備方針が決まり、アクセス道路となる本バイパスの整備を早急に図る必要がある。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <p>本区間は佐伯市蒲江中心部と佐伯市蒲江南部の主要地点を結ぶ延長約2.9kmのバイパスであるが、現況は幅員狭小かつ線形不良区間であり、落石等の危険箇所もあるなど交通の隘路区間となっている。また、現在事業中の小蒲江バイパスとともに、将来東九州自動車道蒲江ICの供用時には、佐伯市蒲江中心部と蒲江ICを結ぶアクセス道路として、安全・安心な生活道路の確保及び地域社会の活性化に寄与するものである。</p>					
全体事業費	36億円		計画交通量	2,400台/日	
<p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

国道388号小蒲江森崎浦バイパスは、産業、経済、文化、観光の広域交流の促進や、また地域の生活道路としても重要な路線であるため、地元では佐伯市をはじめ隣県の宮崎県関係市町村で結成された整備促進期成同盟会があり、早期の改良の要望を受けている。

事業採択の前提条件

- 便益が費用を上回っている。
- 円滑な事業執行が整っている

(東九州自動車道の佐伯～蒲江間がH14度に、蒲江～北浦間がH16度に事業着手。)

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.5	総費用： 30億円 （事業費： 29億円 維持管理費： 2億円）	総便益： 45億円 （走行時間短縮便益： 42億円 走行費用減少便益： 3億円 交通事故減少便益： 0億円）	基準年 平成17年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.6 (交通量+10%)	B/C=1.3 (交通量-10%)		
		事業費変動	B/C=1.3 (事業費+10%)	B/C=1.6 (事業費-10%)		
		事業期間変動	B/C=1.4 (事業期間+20%)	B/C=1.5 (事業期間-20%)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	—	特筆すべき事項なし。		
		事故対策	○	事故件数の減少が見込まれる。 【その他の特徴】 ・交通隘路区間の解消が図られ、事故件数の減少が見込まれる。		
		歩行空間	○	交通隘路区間の解消により良好な歩行空間を確保できる。		
	社会全体への影響	住民生活	○	救急救命医療への貢献、バス運行の定時性の確保、消防活動地区の拡大が図れる。		
		地域経済	○	幅員狭小かつ線形不良区間の解消により、観光入り込み客数の拡大、水産物、花卉類の搬路確保に寄与する。		
		災害	○	緊急輸送道路（1次ルート）の機能強化が図れる。 防災点検箇所の解消（4/4箇所解消）。災害履歴（全面通行止め）：2箇所		
環境		—	特筆すべき影響なし			
	地域社会	○	市町村合併に伴う地域間交流を支援 ・佐伯市（佐伯市、蒲江町他4町3村）H17.3.3合併			
事業実施環境	○	国道388号整備促進期成同盟会・蒲北議会議員協議会が組織され、熱心な要望活動がなされている。				

採択の理由

- ・平成18年2月に開催された、第2回国土開発幹線自動車道建設会議において、東九州自動車道佐伯～蒲江間の整備方針が決まり、蒲江IC（仮称）のアクセス道路である本道路の整備を早急に図る必要がある。
- ・本区間は、幅員狭小かつ線形不良な交通隘路区間であり、さらに、防災点検において、落石等の危険箇所に指定されているため、早急に整備する必要がある。
- ・以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。